

フロイント産業株式会社

個人投資家様向け 説明会資料

東証スタンダード（証券コード：6312）

目次

01_ 当社について

02_ 中期経営計画及び重点施策

03_ 今期の業績予想及び株主還元

04_ 参考資料

01_ 当社について

02_ 中期経営計画及び重点施策

03_ 今期の業績予想及び株主還元

04_ 参考資料

プロフィール



社名	フロイント産業株式会社
設立	1964年4月
代表者	代表取締役社長 伏島 巍
所在地	東京都新宿区西新宿六丁目25番13号 フロイントビル
資本金	10億3,560万円 (2024年2月末現在)
売上高	229億円 (2024年2月期：連結)
従業員数	468名 (2024年2月期：連結)
事業内容	機械事業：造粒・コーティング装置等の製造販売 化成品事業：医薬品添加剤、食品品質保持剤等の製造販売

登壇者について



伏島 巖 (ふせじま いわお)

フロイント産業 (株) 代表取締役社長 CEO
フロイント・ターボ (株) 取締役
Freund Inc. Chairman
Freund S.r.l. Director
Parle Freund Machinery Private Limited,
Director-The Chairman of the Board



社名の由来



フロイントはドイツ語で“友達”を意味します。

創業者の伏島靖豊が創業の構想を友人と語らう中で、

二人が友人であることから、

社名を「Freund」としました。

また、将来広く事業を拓く観点から『産業』を加え、

フロイント産業と命名しました。

当社のロゴは、“友”という文字をデザイン化したものです。

創造力で未来を拓く

Develop the Future through Creativity

「なくてはならない」技術に挑み、 健やかで潤いのある生活を支える。

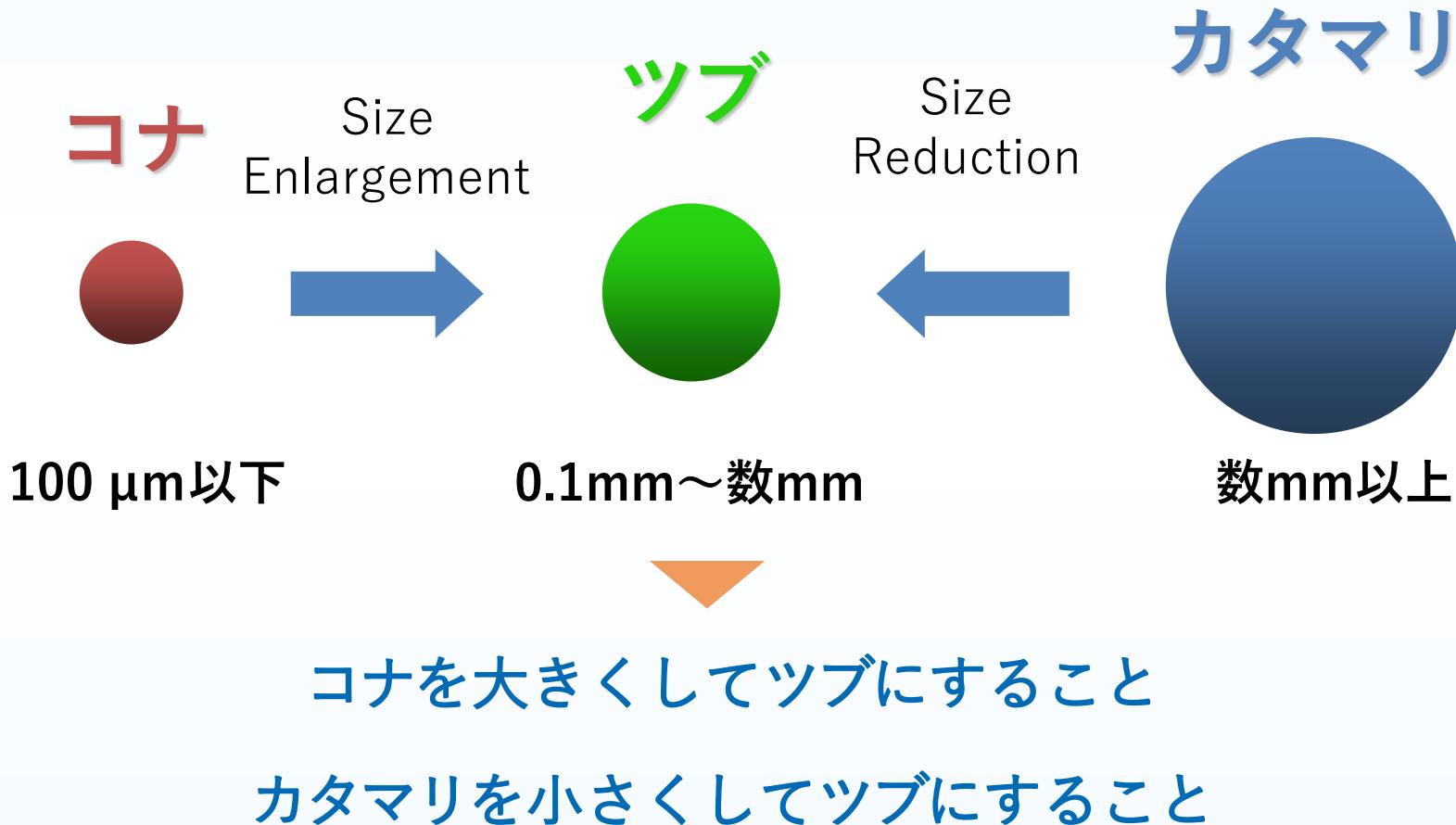
Creating essential technologies for a brighter tomorrow

医薬品を安定供給できる環境。
食品の安全性をはじめ、
日常に豊かさが保たれている環境。
フロイントグループの使命は、
世界中に健康で豊かな未来を届けること。
医療や食、人の生活が抱える課題を
解決するためのモノからナレッジまで。
創造力と技術力で、
世界中の「必要不可欠」に挑戦し、
笑顔で満たされる明日を切り拓きます。

造粒装置や
コーティング装置を
製造・販売する会社です

造粒とは？

粒の定義



なんのために造粒するの？

身の回りで造粒されている製品たち



インスタントラーメン（スープの粉）



コーンスープの素



青汁



漢方



鶏ガラスープの素



スティックコーヒー

なんのために造粒するの？

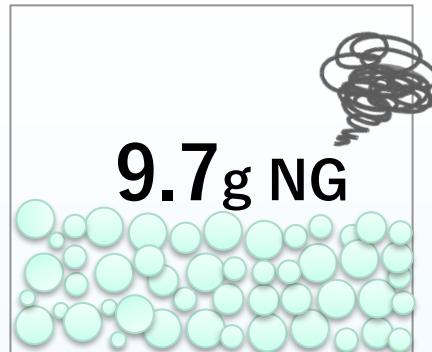
目的

1. 流動性の向上

流動性が悪いと…



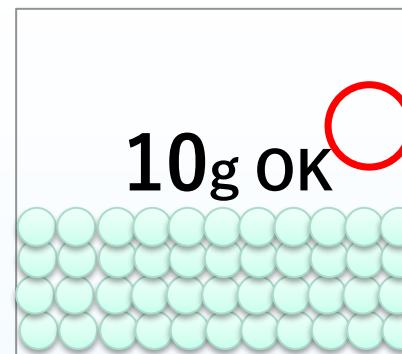
計量、充填の際に均一の量を入れることができない



流動性を向上させると



決まった分量を入れることができる



なんのために造粒するの？

目的

2. 溶解性の向上

溶解性が悪いと…



なかなか溶けない



溶解性を向上させると



水やお湯にサッと溶ける



なんのために造粒するの？

目的

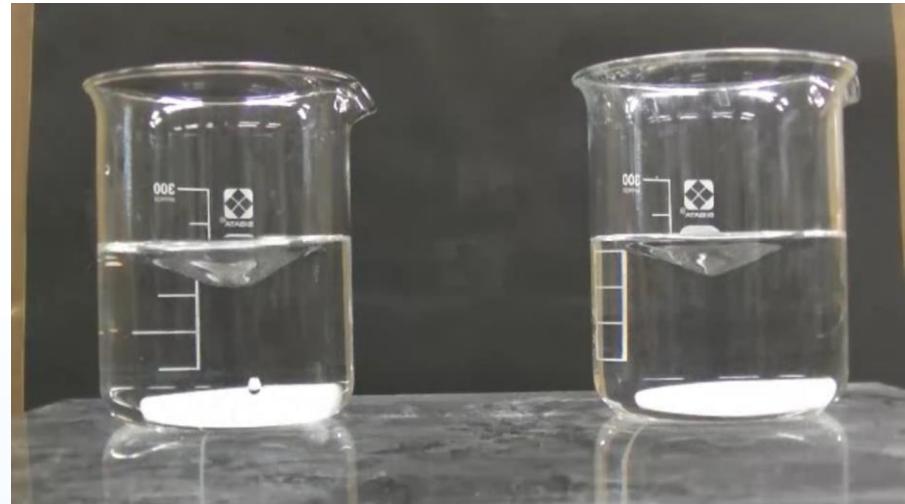
2. 溶解性の向上

【プロテインの溶解の様子】

真上から



側面から



なんのために造粒するの？

目的

3. 偏析の防止

粉体のままだと…



重さや大きさ、形が揃っておらず、
混ぜたときに成分がバラバラになる

造粒することで



どの粒も同じ量の成分となり
均一に混ざった製品を作れる



なんのために造粒するの？

目的

4. 粉末飛散防止

粉体のままだと…



粉が舞って汚れてしまう

造粒することで



粉立ちを防止できる



粉舞いを
防止

なんのために造粒するの？

目的

5. 付着の防止

粉体のままだと…



粉はくっつきやすく、
機械の壁やパイプの中で
詰まってしまうことがある



造粒することで



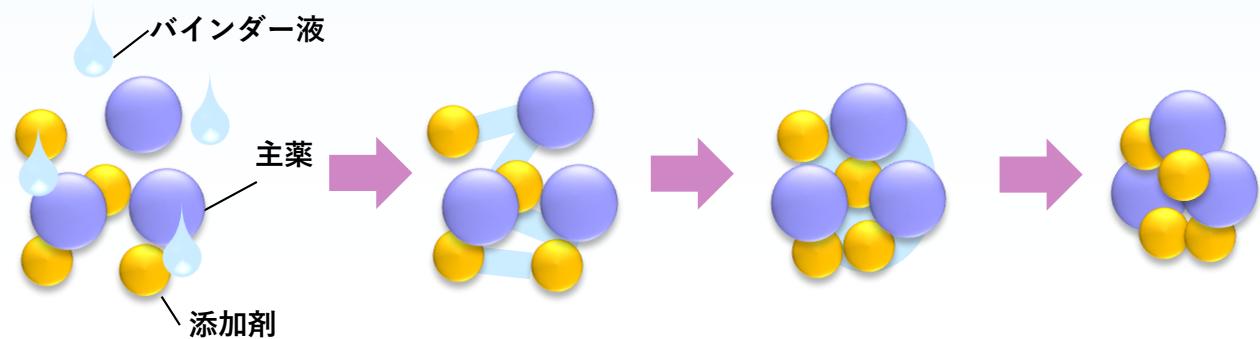
扱いやすくなり、
詰まりなどのトラブルを防ぐ
ことができる



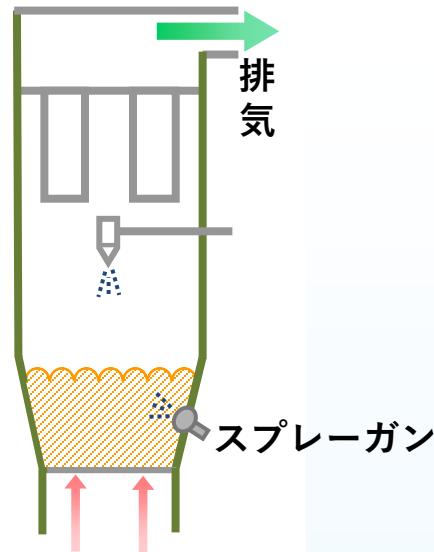
造粒の仕組み

プロセス

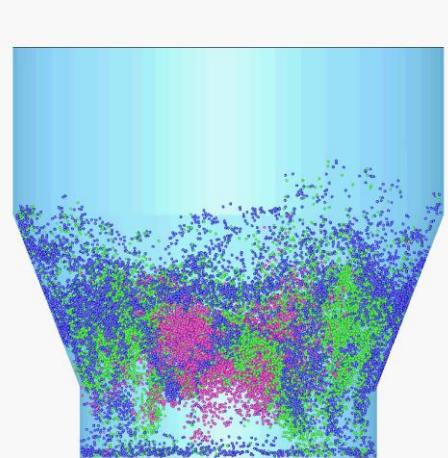
混ぜ合わせた主薬と添加剤を一つの球体状の塊にします



内部構造



粉の動き



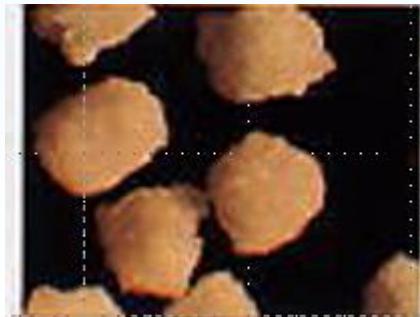
造粒の仕組み

実際の装置



造粒の仕組み

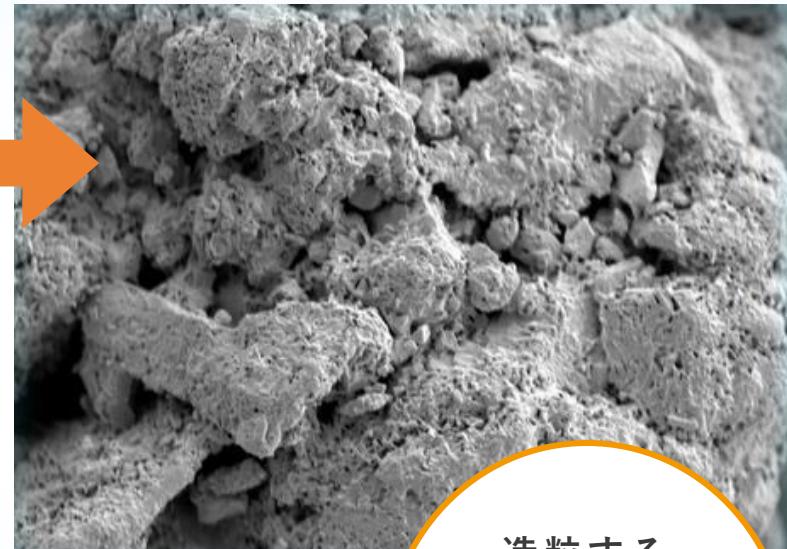
他の造粒装置



流動層造粒装置



造粒物 拡大図



かさ密度



造粒する
装置によって
粉の質が
変わる

コーティングとは？

粒子表面に

適切な物質^{*}を皮膜すること



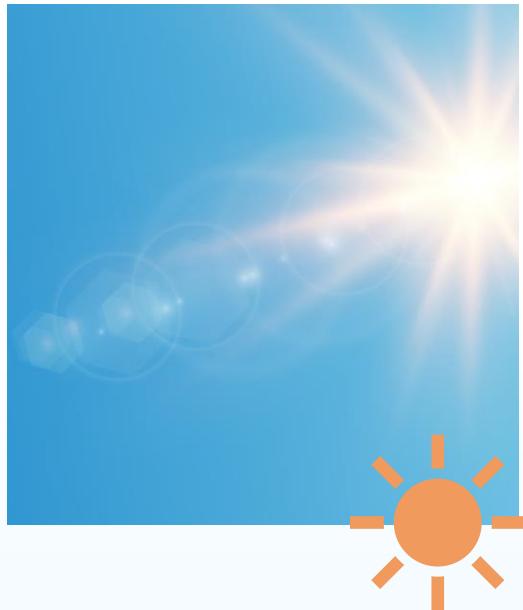
※微粒子や高分子のこと

なんのためにコーティングするの？

目的

1. 耐候性の向上

光、酸素、湿気などによる製品の変質や劣化を防止する。



なんのためにコーティングするの？

目的

2. 美観の付与

表面を隠したり、色をつけたりすることで見た目を良くする。



コーティングされたチョコレート



手につきにくいチョコレート



粒ガム

なんのためにコーティングするの？

目的

3. 苦味、異臭のマスキング

苦い味や嫌なにおいを隠すことで、苦い薬を飲みやすくしたり、口の中で溶ける錠剤の苦さを感じにくくする。



サプリメント



胃腸薬

なんのためにコーティングするの？

目的

4. 主薬間の相互作用防止

複数の薬が互いに影響を与えないようすること。

例えば反応しやすい薬の粒を同じカプセルに入れる場合、それぞれの粒をコーティングしておくことで、保存中に薬が反応し合わないようにできる。



なんのためにコーティングするの？

目的

5. 体内における薬物放出制御

薬が体の中でゆっくり放出されたり、腸で溶けるようにすること。

例えば

- ・花粉症の薬
- ・酔い止めの薬
- ・風邪薬



「1日1回服用」の薬には
当社のコーティング技術が役立っています

コーティングの仕組み



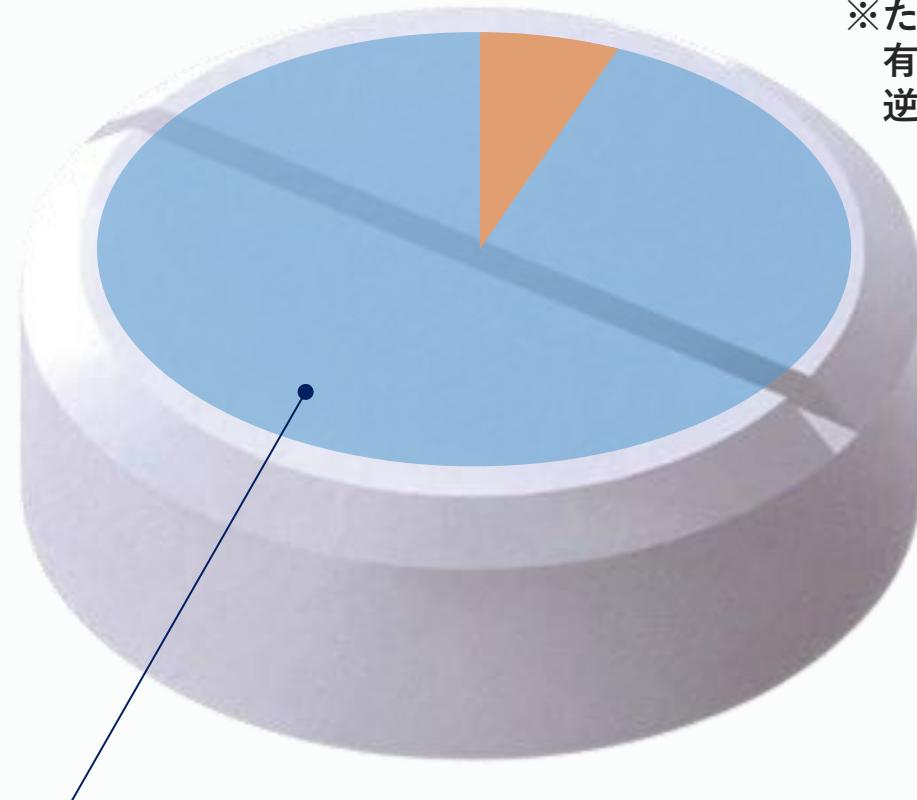
新型錠剤コーティング装置

Hicoater HV

1錠の錠剤の中に
有効成分（主薬）は
何%含まれているでしょうか？

有効成分（主薬）は
全体の5%～10%

※ただし、薬によって
有効成分が50%や、
逆に微量の物もあります



残りのすべてが 医薬品添加剤 です

口腔内崩壊錠について

口腔内崩壊錠 (OD錠)

口中で素早く溶け、水なしもしくは少量の水で服用できる錠剤のこと。

メリット

- 高齢者や小児など、
薬剤の嚥下が低下した患者でも飲み込める
- 場所を選ばず服用できる



OD錠には、
当社の医薬品添加剤が多数活用されています

当社のビジネスフィールド

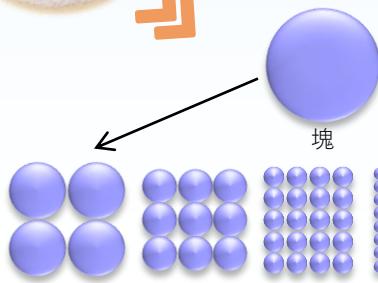
～医薬品（錠剤）の製造工程～

主薬



粉碎・分級

主薬を体に吸収しやすい大きさに砕きます



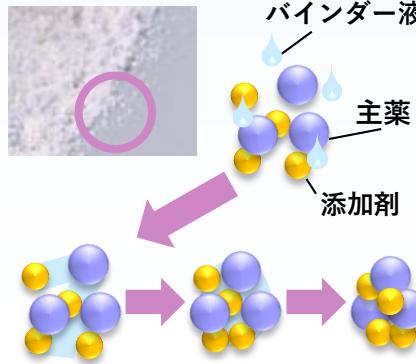
混合・練合

主薬と添加剤を均一に配分できるよう混ぜ合わせます



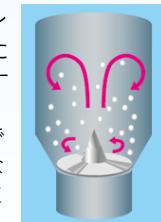
造粒

混ぜ合わせた主薬と添加剤を一つの球体状の塊にします



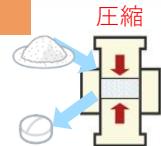
乾燥・整粒

造粒した粉を押し固めやすくするために形を整えます



打錠

造粒した粉を押し固めて錠剤の形にします



包装



完成した錠剤をシートやビンなどの容器に入れます

検査・印刷

完成した錠剤は1粒1粒を検査し、錠剤に薬の名前などを印刷します
錠剤に直接印刷することによって、調剤の取り間違いや、飲み間違いの防止に役立っています



錠剤

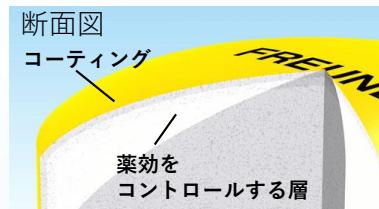
完成した錠剤1粒に含まれる主薬は全体の約2-5%、残りの90%以上は添加剤で構成されています



医局・薬局へ



薬の成分が胃や腸まで届くようにしたり、口に入れた時に苦みが出ないようにしたりする加工をします



一つの錠剤に何ミクロンという薄い膜を何層もコーティングしていくので、錠剤を割った断面には木の年輪のようにいくつもの層ができます

お菓子などに入っている
「たべられません」
見たことがありますか？



食品品質保持剤 アンチモールド・マイルド

食品と一緒に包装することで、やわらかさやしっとり感を保持しつつ、カビなどの微生物の繁殖を抑制します。

乾燥剤（シリカゲル）との違い



乾燥剤は、乾燥状態を維持するために使用されます。カビを抑制したり、やわらかさやしっとり感は保持することができません。

例：おせんべい、クッキーなど

こんなものに入っています



事業概要



機械

MACHINERY

造粒・コーティング装置を筆頭に各種機械装置の技術開発に注力。医薬品業界を中心に、国内外で数多くの導入実績を誇ります。



医薬品添加剤

EXCIPIENTS

薬は、病気に効く薬効成分と薬の働きを適切に発揮させるための医薬品添加剤からできており、私たちはこれら医薬品添加剤を製造・販売しています。

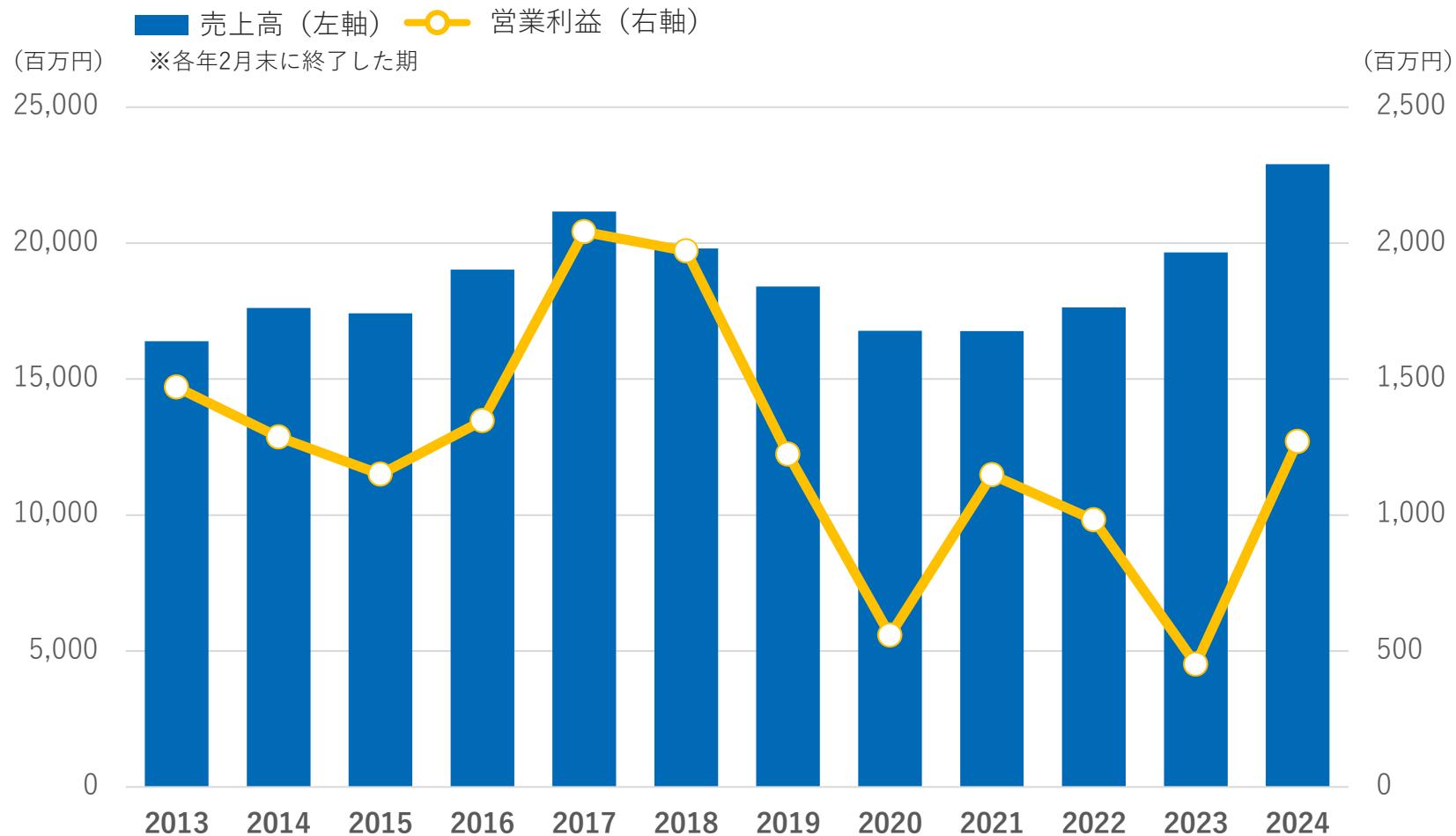


食品品質保持剤

FOOD PRESERVATIVES

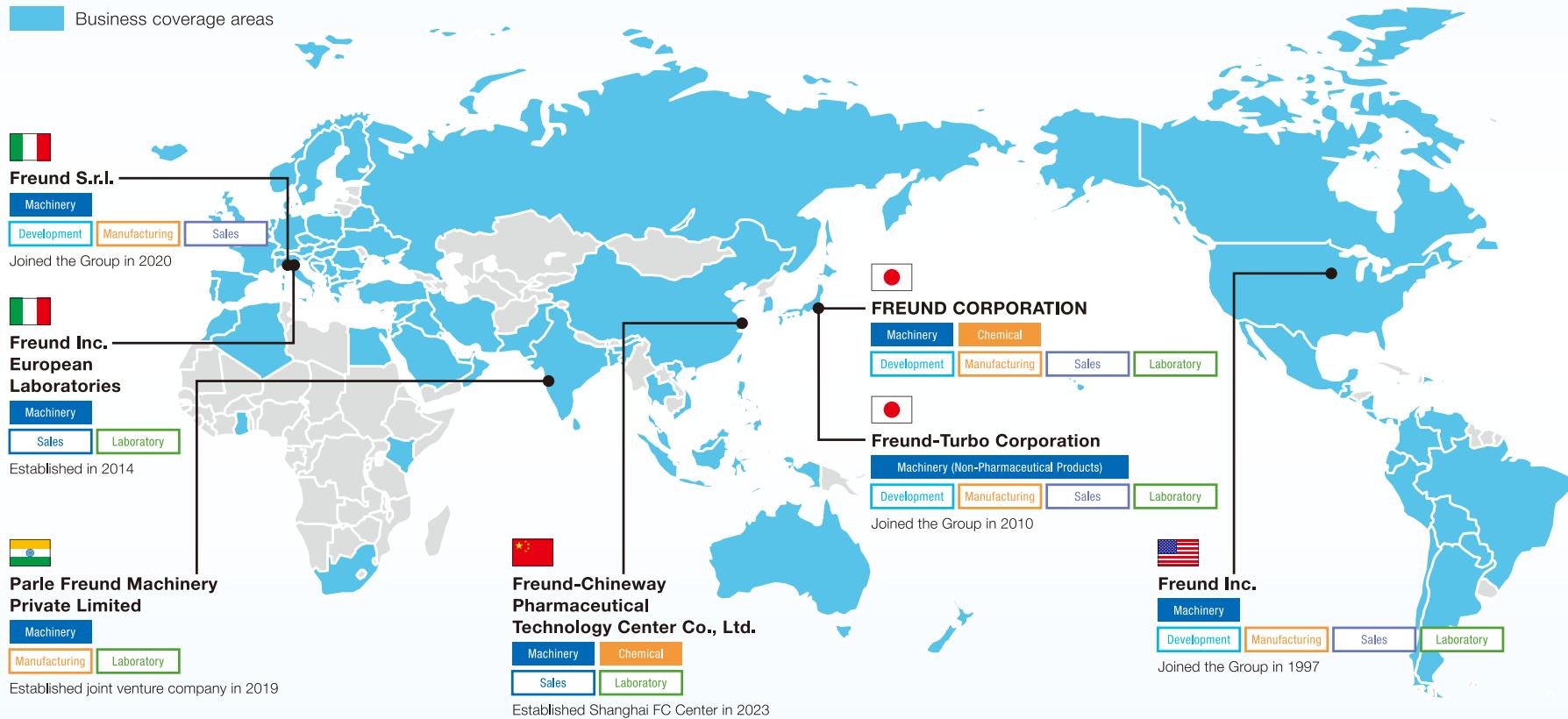
しっとり感が大切な焼き菓子やパンのカビなどの微生物繁殖を抑え、賞味期限を延長できる食品品質保持剤の製造・販売も私たちの仕事です。

売上高・営業利益推移



当社グループ各社と R & D拠点

独創的技術でのグローバル化を積極的に推進



グループ会社



フロイント・ターボ株式会社

フロイント・ターボは、乾式微粉碎機のパイオニアとして「ターボミル」を開発し、1967年に設立され、2010年にグループに入りました。創業以来、粉体加工製造における各プロセスの研究開発・製品展開に注力し、化学品および電池材料等の粉体製造分野にハイスペックな製品を提供しています。また、自社技術を用いた合成樹脂等の受託加工事業を行っています。



FREUND Inc.

FREUND Inc. (アメリカ・アイオワ州) は、1972年創業の機械装置メーカーで、1979年から当社のライセンシーとして北米・中南米に造粒・コーティング装置の製造販売を開始しました。1997年にグループ入りし、今日は、当社グループの米州拠点であるほか、中南米、欧州の製薬・化学・食品メーカーに向けて、営業を展開しています。

グループ会社



FREUND S.r.l.

1991年設立の独立系中堅製剤機械メーカーであるFREUND S.r.l.（イタリア・ミラノ）は、2020年にグループ入りしました。医薬品・化学・食品業界の中核製造過程における付帯的工程を担う原料搬送・プロセス装置など、他グループ会社との重複がない製品を中心に設計・製造・販売を行っています。イタリア国外や、欧州圏外の医薬品新興国などにも展開しており、製品群・地域共にクロス・セーリングを可能とし、シナジーを生み出しています。



Parle Freund Machinery Private Limited

Parle Freundは、インド国内における造粒装置の製造販売を行う目的で、2019年に合弁企業として設立されました。合弁先であるParle Global Technologies Pvt Ltdは1974年の設立で、インドにおいて医薬品製造機械の製造・販売を行ってきました。インドは大手ジェネリックメーカーが多く立地する地域であり、Parle Freundは現地ニーズに合ったものを現地生産しています。



Freund-Chineway Pharmaceutical Technology Center Co., Ltd.

Freund-Chinewayは2023年6月に技術開発研究所として上海に設立いたしました。合弁先であるShanghai Chineway Pharmaceutical Technology Co., Ltd.は2003年に設立され、中国国内で医薬品添加剤の販売代理店として営業を行っています。フロイントグループの中国拠点として、中国製薬企業の製品開発サポートを行っていきます。

フロイントグループは、造粒・コーティング・粉碎・分級などの技術を基礎に、医薬品のみならず、食品やその他の産業用途などの非医薬品分野にも事業領域を拡大し、人々の健康や生活の質向上に貢献するチャレンジを続けています。グループ会社であるフロイント・ターボでは、以下の取り組みを行っております。

リチウムイオン電池市場の進化への対応

金属類が発火の原因になりやすいLiB原料用途を視野に、業界初と言えるオール樹脂の分級機「ターボスクリーナー（Pシリーズ）」、高速混合造粒機「バランス・グラン」を開発。今後もお客様の多様な要望に対応できる装置の開発を加速します。



高速混合造粒機
バランス・グラン

積層セラミックコンデンサ、フィルム等次世代市場への対応

LiBや積層セラミックコンデンサなどの原料用途に、湿式粉碎機「アクアターボ」の処理量アップ対応モデルを開発。この装置は次世代電池用途にも利用可能との評価試験結果が出ており、幅広い次世代ニーズへの展開が期待されます。



湿式粉碎機
アクアターボ

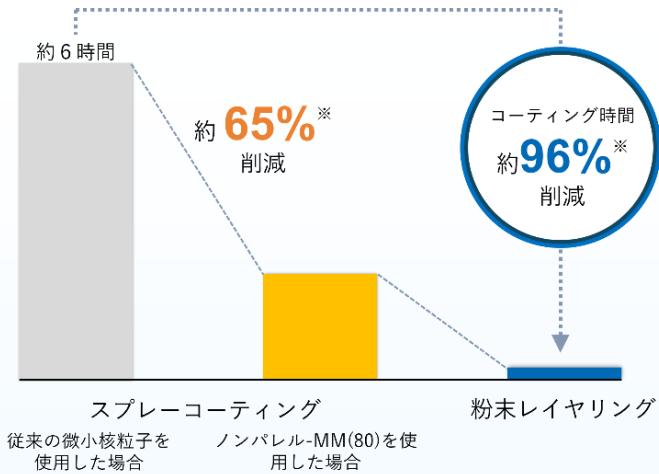
薬の服用のしやすさと医薬品製造現場のコストダウンを叶える
医薬品添加剤「ノンパレル®-MM」を開発しました。

業界最小の球形微粒子

薬効成分や他の添加剤をコーティングするための基材となる粒子は、小さいほど錠剤を構成する他の添加物との混合均一性が保つことができ、錠剤のコンパクト化や服用時の口当たりを良くすることができます。ノンパレル-MMは、強度を向上しながら業界最小の粒子径80 μm を実現させました。そのため錠剤自体を小さくすることができ、子ども向けの小さな薬とすることや、服用時における口の中のざらつきを低減させることができます。

製薬の微粒子コーティング時間を従来比約96%短縮

核粒子に対して微粒子を何層にもわたり均一にコーティングする特許出願中の技術を用いれば、コーティング時間を当社従来品に比べて約96%に短縮させることができます。これによって、医薬品製造現場のコストダウンに貢献することができます。



01_ 当社について

02_ 中期経営計画及び重点施策

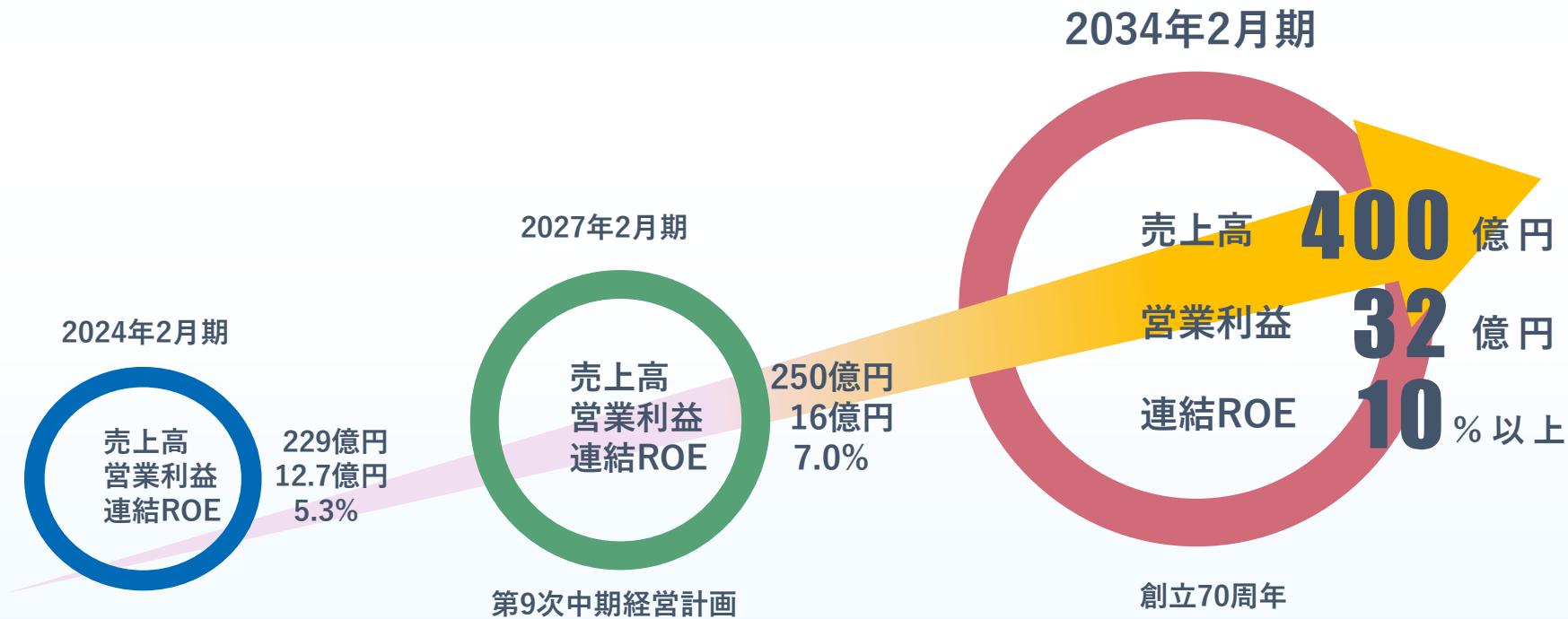
03_ 今期の業績予想及び株主還元

04_ 参考資料

長期ビジョン（基本方針）

基本方針

- ・イノベーションを創出し、世界中の人々の健康と豊かな生活に貢献する
 - ・機械事業はエリアカバレッジを拡大し、グローバルTOP3を目指す
 - 化成品事業は日本No.1スペシャリティカンパニーとなる
 - ・多様な人財が活躍、成長し続ける組織となる



サステナブル社会に貢献する技術開発

国内機械

自動化、省エネ、エコに貢献する装置の開発・販売



錠剤コーティング装置
HICOATER HV

コーティング時間

40%
短縮※

※従来機との比較

錠剤サンプリング

錠剤数量および重量測定
終点管理および予測・停止

自動化



錠剤コーティングPATシステム
TACT

化成品

医薬品添加剤のモーダルシフト実施



温室効果ガス排出量削減（約5.8トン）

環境配慮型食品品質保持剤の開発・販売



製品のバイオマス度80%以上を実現
アンチモールド・マイルドEF

01_ 当社について

02_ 中期経営計画及び重点施策

03_ 今期の業績予想及び株主還元

04_ 参考資料

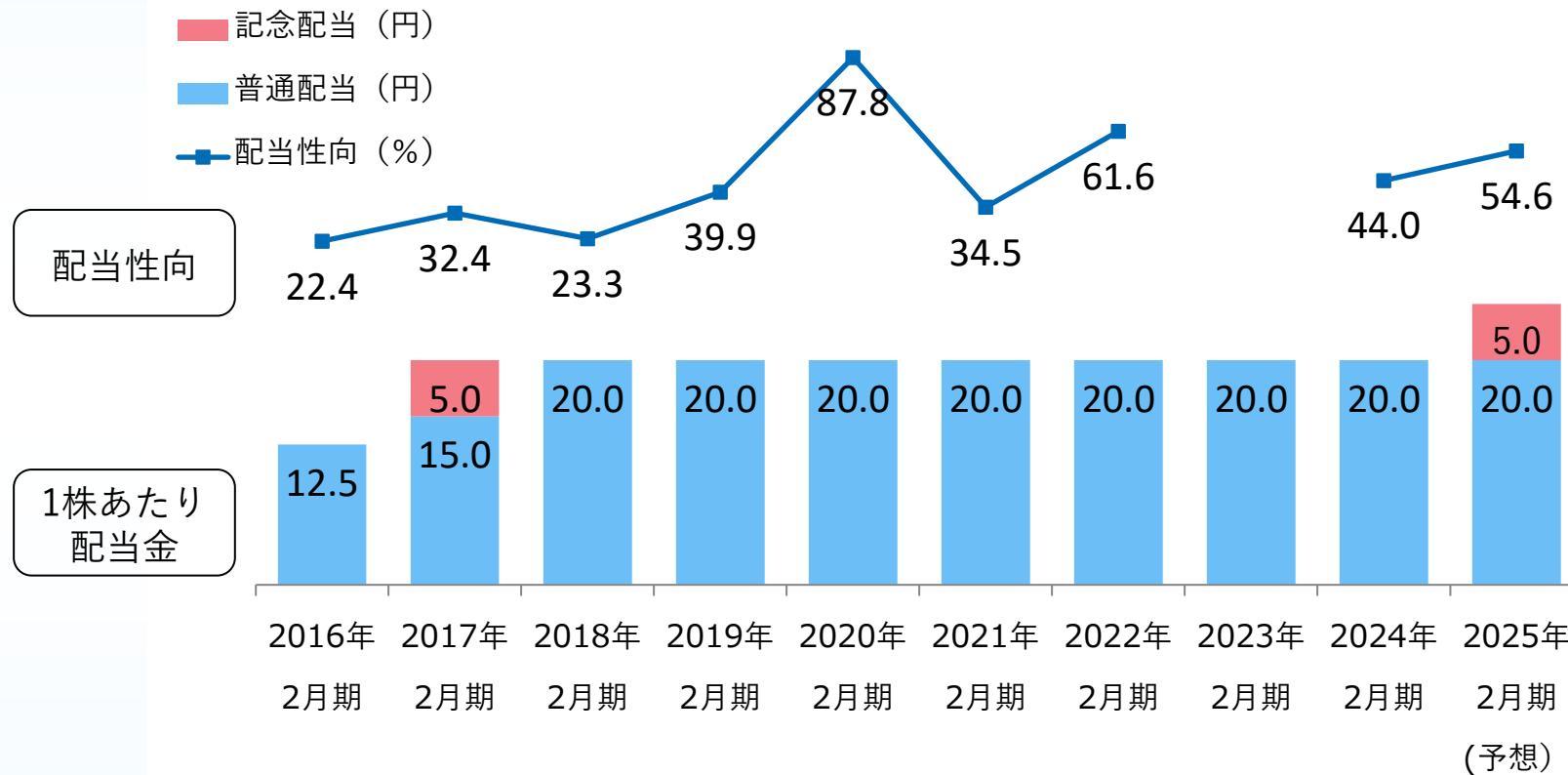
連結決算サマリー

- 通期の売上・利益について、国内は安定的に計上、海外は下期に黒字化見込みのため業績予想は変更なし。

(単位：百万円)	2024/2月期		2025/2月期 予想	
	金額	構成比 (%)	金額	前年比 (%)
売上高	22,903	100.0	23,500	102.6
売上総利益	7,043	30.8	—	—
販管費	5,773	25.2	—	—
営業利益	1,270	5.5	1,100	86.6
経常利益	1,285	5.6	1,100	85.6
税金等調整前当期純利益	1,101	4.8	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	764	3.3	770	100.8

配当予想

■ 2025年2月期は創立60周年記念配当を予定。



(注) 2023年2月期の連結配当性向については、親会社株主に帰属する当期純損失を計上しているため記載しておりません。
2016年3月1日付で株式分割1対2を実施しており、2016年2月期以前の配当金は分割調整後の金額です。
記念配当については、2017年2月期は上場20周年記念配当を、2025年2月期予想は創立60周年記念配当を示します。

中間期末株主様に オリジナル・QUOカードを謹呈しています



【優待内容】

所有株式	贈呈内容
1年以上	QUOカード 1,000円分
3年以上	QUOカード 2,000円分

毎年8月31日現在、**1単元（100株）**以上保有で当社株主名簿に記載または記録※された株主様が対象となります。

※同一株主番号にて株主名簿に連続して記録されていることを指します。

ご参考：株価704円（2024年11月25日終値）

配当利回り：3.55%*

優待込：4.97%*

		100株	300株	500株
配当金（年間）	1株あたり配当金 = 25円	2,500円	7,500円	12,500円
株主優待（年間）	(1年以上3年未満継続保有) QUOカード		1,000円分	
	(3年以上継続保有) QUOカード		2,000円分	
ご購入予算	1株 = 704円で計算	70,400円	211,200円	352,000円

※1単元（100株）保有の場合

株価参考資料 (2024/11/25 終値)

東証STD 6312 機械

フロイント産業（株） 704

前日比 +4.0 (+0.57%)

前日終値 (2024/11/24)	700
始値	710
高値	710
安値	702
出来高	8,000株
売買代金	5,654千円
値幅制限 (2024/11/25)	550～850



参考指標

時価総額	12,954百万円
発行済み株式数 (2024/11/25)	18,400,000株
配当利回り (会社予想)	3.55%
1株配当 (会社予想) (2025/02)	25.00
PER (会社予想)	(連) 15.45倍
PBR (実績)	(連) 0.82倍
EPS (会社予想) (2025/02)	(連) 45.56
BPS (実績) (2024/02)	(連) 889.03
最低購入代金	70,400
単元株数	100株
年初来高値 (24/04/02)	975
年初来安値 (24/08/05)	622

01_ 当社について

02_ 中期経営計画及び重点施策

03_ 今期の業績予想及び株主還元

04_ 参考資料

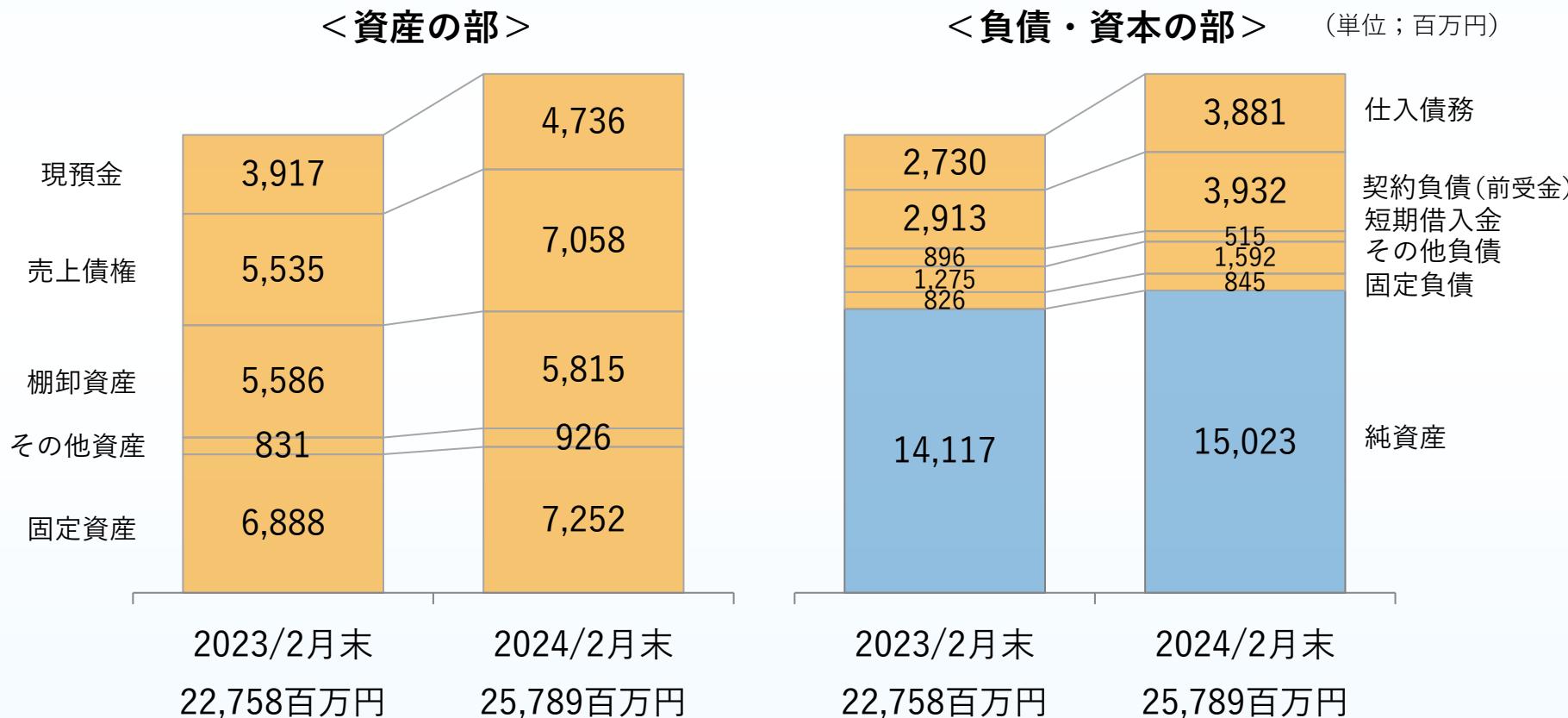
連結損益計算書（2024/2月期）

- 過去最高の売上高となり大幅な增收増益
- 受注も過去最高となり、期末受注残高も過去最高を記録
- 販管費は、新システム関連費用が翌期計上となったものの、賃上げ等で増加
- 当期純利益は新システムの一部除却損があったものの大幅な増益

(単位：百万円)	2023/2月期		2024/2月期		前年比増減	
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	金額	%
売上高	19,658	100.0	22,903	100.0	3,245	16.5%
売上総利益	5,993	30.5	7,043	30.8	1,050	17.5%
販管費	5,541	28.2	5,773	25.2	232	4.2%
営業利益	451	2.3	1,270	5.5	818	181.3%
経常利益	559	2.8	1,285	5.6	726	129.9%
税金等調整前当期純利益	△ 406	△ 2.1	1,101	4.8	1,507	—
親会社株主に帰属する当期純利益	△ 538	△ 2.7	764	3.3	1,303	—
ROE	△3.8%	—	5.3%	—	—	—

要約貸借対照表（2024/2月期）

- 第4Qに大きく売上を計上したことで売上債権が大きく増加
- 受注残が多く仕入債務や契約負債が増加



要約キャッシュ・フロー計算書 (2024/2月期)

(単位：百万円)	2023/2月期	2024/2月期
営業キャッシュフロー		
税引前利益	△ 196	2,368
減価償却費	△ 406	1,101
減損損失	565	539
売上債権の増減額 (△は増加)	933	—
仕入債務の増減額 (△は減少)	△ 171	△ 1,380
契約負債の増減額 (△は減少)	△ 78	1,085
法人税等の支払額	△ 356	887
	△ 412	△ 267
投資キャッシュフロー	△ 666	△ 739
有形固定資産の取得による支出	△ 269	△ 348
無形固定資産の取得による支出	△ 330	△ 391
財務キャッシュフロー	451	△ 874
短期借入金の純増減額(△は減少)	852	△ 450
配当金の支払額	△ 333	△ 333
現金及び現金同等物 増減額	△ 228	819
現金及び現金同等物 期末残高	3,917	4,736
フリー・キャッシュフロー	△ 862	1,628

フロイントグループ ディスクロージャーポリシー

1. 情報開示の基本方針

当社は、広く社会に信頼される企業として、経営の透明性向上を重要な責務のひとつと考えています。その考えに基づき、すべてのステークホルダーの皆さんに、会社情報の公平かつ適時適正な開示を継続的に行います。

2. 情報開示の基準

当社は、会社法、金融商品取引法などの関係法令および当社が上場する証券取引所が定める適時開示に関する諸規則にしたがって、情報開示を行います。

当社は、関係法令および適時開示に関する諸規則に該当しない情報であっても、株主・投資家の皆さまの投資判断にとって必要であると考えられる情報については、積極的に開示いたします。

3. 情報開示の方法

当社は、東京証券取引所の提供する適時開示情報伝達システム（Timely Disclosure network、以下「TDnet」という）を通じて情報を開示いたします。TDnetにより開示した情報は、情報開示の適時性・公平性に配慮し、速やかに当社ウェブサイトに掲載いたします。

そのほかの情報についても、適時開示の趣旨に則り、プレスリリース、当社のウェブサイトへの掲載などにより公平かつ迅速に開示いたします。より多くのステークホルダーの皆さんに分かりやすい開示を行うため、開示情報は日本語とあわせ、その英訳の開示に努めます。

4. インサイダー取引の未然防止

当社は、内部情報の適切な管理および株式などの売買などについて遵守すべき基本事項を社内規則に定め、インサイダー取引規制の周知徹底と株式などの売買管理体制の適切な運用により、インサイダー取引を未然に防止します。

5. 沈黙期間

当社は、決算情報の漏洩を防止し、法令遵守および公平性を確保するため、各四半期決算期日の翌日から当該決算発表日までを「沈黙期間」と定めます。当該期間中は、決算に関するコメントや質問・照会に対する回答は差し控えさせていただきます。ただし、業績が予想と大きく乖離する可能性がある場合には、適時開示に関する諸規則に従い適時適正に開示いたします。

6. 将来予測について

当社が開示する情報の中には、業績予想以外にも戦略、事業計画などの将来予測に関する情報が含まれておりますが、これらの情報は作成段階において入手可能な情報をもとに判断したものであり、その後の経済情勢や市場環境の変化などによって、将来予測は大きく異なる可能性があります。

(2017年3月27日制定)

株主・投資家との建設的な対話に関する方針

当社は、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上をめざし、株主・投資家の皆様との建設的な対話を積極的に進めます。当社の経営方針や経営状況、企業文化をわかりやすく説明し、株主・投資家の皆様のご理解を得て、「FREUND ファン」として継続的にご支援いただけるように努めます。

1. 推進体制株主・投資家の皆様との対話

執行役員 管理本部長が統括し、IR担当部署の経営企画部が担います。

株主の皆様との対話を促進するため、社内の関連部門は、開示資料の作成・審査や必要な情報の共有など、積極的に連携を図り、公正且つ迅速に情報開示を行います。

2 ステークホルダーとの対話

当社は期末及び第2四半期の決算説明会（第1・3四半期はスモールミーティング）を実施し、その情報は当社ウェブサイトに公開します。また、中長期経営計画を策定した際には、経営戦略や経営計画についてわかりやすく説明いたします。さらに、機関投資家への訪問も積極的に実施し、経営方針や業績の説明を行います。また、証券会社主催の投資家フォーラムや個人投資家説明会等にも参加します。

株主通信やFREUND Report（統合報告書）の発行、ウェブサイトIRページ（<https://www.freund.co.jp/ir/>）の更新などにより、事業や財務情報とともに財務諸表に載らない資産（見えない資産）を紹介することで当社グループの企業価値を正しくご理解いただけるように、情報開示の充実に努めます。

3 株主・投資家からの意見を社内へフィードバックする仕組み

株主・投資家の皆様との対話において把握された意見は、社長、取締役や関係各部に適宜報告し、情報を共有します。

4 インサイダー情報の管理

各四半期の決算期末日より決算発表日までの期間はサイレント（沈黙）期間とし、投資家の皆様との対話を制限しています。

インサイダー情報については、社内の内部情報管理・内部者取引規制に関する規程に従い、情報管理の徹底を図っています。

フロイント産業株式会社

経営企画部



<https://www.freund.co.jp>



ir@freund.co.jp



本資料には当社の計画、見通し、経営戦略および経営方針に基づいた「将来予測に関する記載」が含まれております。この「将来予測に関する記載」には発表日時点までに入手可能な情報に基づいた経営判断や前提が述べられております。そのため諸与件の変化により、実際の業績は「将来予測に関する記載」とは異なる結果となる可能性があります。従って本資料における業績予想などの「将来予測に関する記載」が将来に亘って正確であることを保証するものではないことを、ご了解いただきますようお願いいたします。なお、掲載内容について当社はあらゆる面から細心の注意を払っておりますが、それらには誤りやタイプミス等が含まれる可能性があります。

